

実施内容報告書

課 題 名：館外での出前企画展の開催

交付番号：202106

機 関 名：豊田市自然観察の森（指定管理者：（公財）日本野鳥の会）

氏 名：大熊千晶

1. 事業背景

豊田市自然観察の森は約 2 万点の自然史標本を収蔵する小規模な環境学習施設（博物館類似施設）であるが、標本収蔵の役割は後付けのものであり、標本を取り扱うことを想定して設計された施設ではない。そのため、標本を展示できるスペースと設備に乏しい。そこで、近年は活用場所を自館に限らず、展示設備を持つ市内の他の公共施設等と協力し、場所と設備を借り受けての企画展やワークショップ、市内イベントでの出張展示などに力を入れている。

その流れの一つとして、豊田中央図書館および豊田市美術館の協力のもと、展示スペースを企画展会場として使用できる機会を得た。今回、使用が認められた両施設は豊田市駅からのアクセスが良く、利用者も多い。そこで、それぞれの施設の空間・立地を活かした展示を企画した。

2. 事業目的

本事業は、当館収蔵の標本の活用機会を増やすとともに、その情報や価値について広く発信することを目的とする。豊田中央図書館および豊田市美術館の展示スペースを企画展会場として借り受け、各施設の空間と立地を活かした展示をすることにより、興味の分野が異なる層の市民にも自然科学の面白さや奥深さを伝え、じっくりと観察することの楽しさを体験できる展示を目指す。なお、本事業の制作物および展示什器は事業終了後も継続して市内イベントおよび市内他施設などでの出前展示・出前講座に活用することとし、より多くの機会と場を開拓するためのツールとしたい。

3. 事業の具体的実施内容

●ミニ企画展「標本の作り方・つくり方展～自然を記録する～」(豊田中央図書館)

目 的 : 標本を作ることへの興味とともに、地域の自然情報を記録として残す手法について楽しく学んでもらうこと。

概 要 : 昆虫や植物、哺乳類や鳥類の標本がどのような過程を経て、未来へ残る資料となるのかを、標本と実際に使っている道具など約 100 点と写真・イラストパネルで紹介した。図書館では毎年「調べる学習コンクール」((公財) 図書館振興財団) に関する特集や講座が設けられており、本展示もそれに絡めて、個人でも残せる自然史の記録や調べる活動の一助としてもらえるよう、お家でもできる簡単標本の作り方を掲載したパンフレット「標本作り挑戦ガイドブック」を先着 200 名に配布、当館 HP にて PDF 公開をした。また、興味を深めるための更なる活動の入り口として、地域の同好会や調べ学習に利用できるデータベースサイトについての紹介パネルを展示した。7 月 11 日(日)、7 月 18 日(日)に展示会場で昆虫標本作りを実演。来場者の質問にも答え、要望があれば簡単な展示案内をした。

会 期 : 2021 年 7 月 8 日(木)～7 月 31 日(土) 10:00-20:00

会 場 : 豊田中央図書館 5 階企画展示コーナー

協 力 : なごや生物多様性センター(アライグマ仮剥製)、中部蜘蛛懇談会(活動紹介)、西三河野生生物研究会(活動・報文紹介)、名古屋昆虫同好会(活動紹介・報文紹介)、個人收藏.com(活動紹介)、クラウド標本管理サービス(活動紹介)、豊田中央図書館(会場提供)

広 報 : 広報とよた、豊田市自然観察の森の HP・SNS、市内公共施設ポスター、豊田市環境政策課 ML メルマガ

取 材 : 中日新聞、ひまわりネットワーク、FM とよた

結 果 : スタッフ常駐ではなかったため、来場者数は不明だが、会場に設置していた「標本作り挑戦ガイドブック」200 部は会期中に全て配布し終わった。

〈展示構成〉

- ・標本とは? (コラム: 標本を比較する・分布を知る 外来種ムネアカハラビロカマキリ)
- ・標本資料館の紹介
- ・植物標本とは? その作り方
- ・鳥の羽標本、卵標本の作り方(巣の標本とともに)
- ・昆虫標本の作り方(展足、展翅、微針を使った小型昆虫標本、ジオラマ標本)
- ・本剥製と仮剥製
- ・骨標本の作り方
- ・標本を用いて記録する・発表する
- ・食べ物から標本(鶏の手羽先や沖縄料理用の豚頭部を用いた骨標本)

〈ポスタービジュアル〉

豊田市自然観察の森
2022年7月8日(木)～7月31日(土)

標本づくり講座がイロアツク配布します！
(先着200名)



**標本のでき方・つくり方展
～自然を記録する～**

2022 7/8 Thur → 2022 7/31 Sat

会場：豊田市中央図書館5階 企画展示コーナー
(豊田県豊田市西町1-200)

時間：10:00～20:00
休館日：月曜休館・月曜祝日は祝館 / 入場：無料
主 催：豊田市自然観察の森 / 協力：豊田市中央図書館



※このポスターは、一環として作成した資料の複製を目的としたもので、複製・転載はご遠慮ください。

〈展示の様子〉



〈標本作り挑戦ガイドブック〉



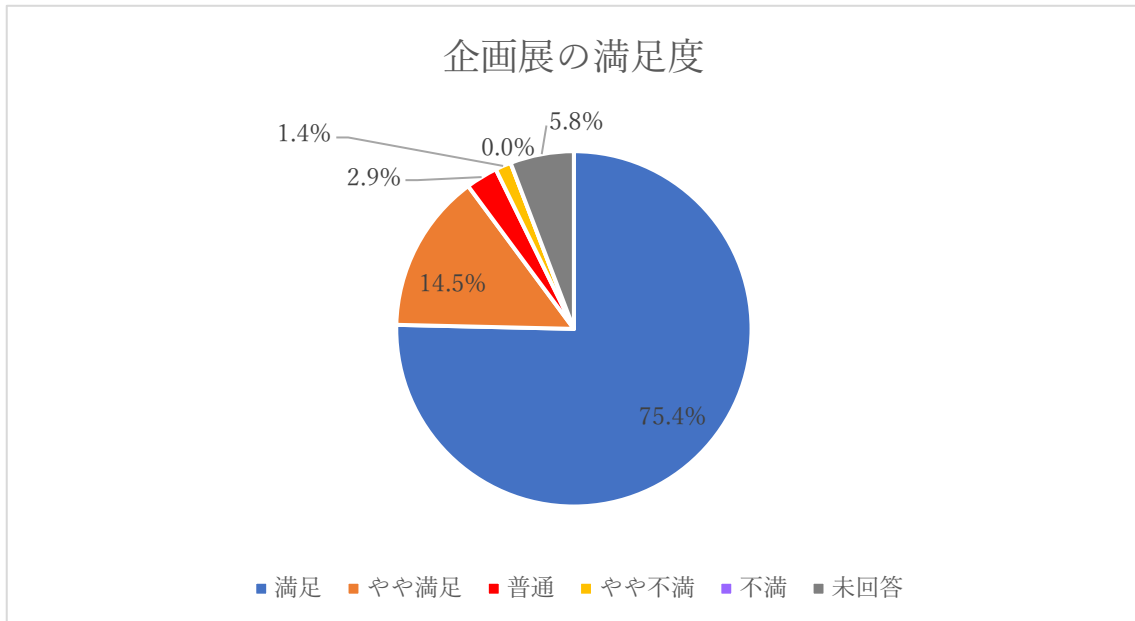
先着 200 名 無料配布

HP にて PDF 版公開 (<https://toyota-shizen.org/index.php/home-museum/>)

全 16 ページ

- ・ 標本ってなんだろう？
- ・ 電子レンジで植物標本をつくろう！
- ・ 鳥の羽を標本にしてみよう！
- ・ りんぷん転写をしてみよう！
- ・ 昆虫標本にちょうせんしよう！
- ・ 標本資料館のご案内

〈アンケート結果〉（回収数 69）



- ・現地での来場者の声として、「ゴキブリは好きじゃないけど、標本でこうして見ると普通の虫も思える。どうして私たちはゴキブリが嫌いなのだろうか」「玄関でよく見る虫で、カナブンだと思っていたが、アオドウガネという虫だということをはじめて知った。ちゃんと見ると綺麗な虫」「冬虫夏草というものの実物をはじめて見た。豊田市でも見られるなんて知らなかった」というものがあつた。標本の特徴として比べることができることと、じっくり観察できることがあるが、まさしく標本を介して参加者が進んで生き物をじっくりと観察し、自ら新たな気づきや疑問を得るきっかけとなったのではないかと感じた。また、「標本は見るけど、作り方はなかなか見られない。知らなかった。この機会はとても貴重」という声もいくつか聞かれた。
- ・より詳しい内容や広い会場での開催を望む声もあつたが、一方で、このくらいの規模が疲れずに気軽に見られて嬉しいとの声もあつた。手を広げるのもひとつの手かもしれないが、こうして小規模ながら展示テーマを絞ったものを継続することも一つの手法であるとする。

●企画展「生き物の色とかたち展」(豊田市美術館)

目 的 : 「生き物の美」をテーマとし、生き物の実物である標本の姿かたちや生態写真とおして、「美」の中に秘められた生き物たちの生きるための知恵と工夫を知ってもらうとともに、身近な自然や生き物の不思議・魅力を再発見してもらう。

概 要 : 豊田市自然観察の森の標本資料館収蔵の標本類、および借用標本、模型、写真パネルやアート作品の展示をした。美術館という施設の特徴を活かし、当館の通常来館者とは違った興味の層もターゲットとし、個々の展示品だけでなく、標本のある空間そのものも楽しんでもらえるよう、大型の写真パネルや黒背景タペストリーなどビジュアル的なインパクトにも気を配った。自然を記録する手法としての美術、あるいは楽しむための美術として、細密画やスケッチも標本とともに配置した。会期中は担当学芸員が会場に常駐し、必要に応じて来場者に解説を行った。また、3月13日には写真家の佐藤岳彦氏が在廊し、撮影裏話などの解説を行った。

会 期 : 2022年3月2日(水)～3月13日(日) 10:00-17:30

会 場 : 豊田市美術館

協 力 : 佐藤岳彦(写真)、渡邊智之(写真)、高原寛徳(昆虫標本)、間野隆裕(昆虫標本)、市山美季(羊毛フェルト作品)、新谷亮太(羽・翼標本)、弘岡知樹(細密画)、岡田慶範(博物スケッチ)、安齊俊(展示パネル挿絵)、豊田市自然観察の森ボランティア あべまきの会(会場受付)、豊田市美術館(会場提供)

広 報 : 広報とよた、豊田市環境政策課メルマガ、公共施設ポスター・チラシ、市内各小学校・保育園・幼稚園等、豊田市自然観察の森 HP・SNS・メルマガ

取 材 : 中日新聞、ひまわりネットワーク、FM とよた

来場者 : 2,338 人

〈展示構成〉

・植物「花と送粉者」

(さまざまな送粉方法、ガ・チョウ媒花、ハエ・アブ媒花、ハチ媒花、色を変える花)

・昆虫(昆虫の多様性、構造色、擬態・隠蔽、眼状紋、尾状突起)

・鳥(翼の形と飛翔能力、鳥の骨格、オスの美しさ・構造色、嘴と食べ物、卵のかたち)

・哺乳類(歯式で動物種を見る、歯のかたちと食べ物)

・冬虫夏草(豊田市でも見られる冬虫夏草)

・収斂進化(モグラとケラ、カマを持つ昆虫を題材に)

〈ポスター&広報用配布ポストカードビジュアル〉



展示ポスター

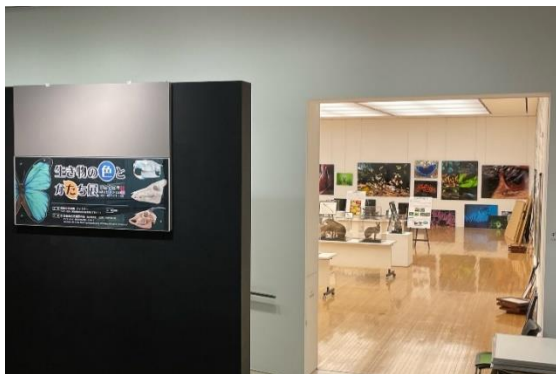


広報用配布ポストカード

〈展示の様子〉



展示全景



企画展入口
※設営途中



哺乳類の歯のかたちと食べ物
(学芸員による骨タッチ&解説実施)



ツキノワグマの頭骨標本と羊毛作品



哺乳類の剥製



植物の送粉と動物媒花
(標本および地域の植物スケッチ)



冬虫夏草標本



鳥の色とかたち
(オスの色とかたち)



鳥の羽標本と細密画

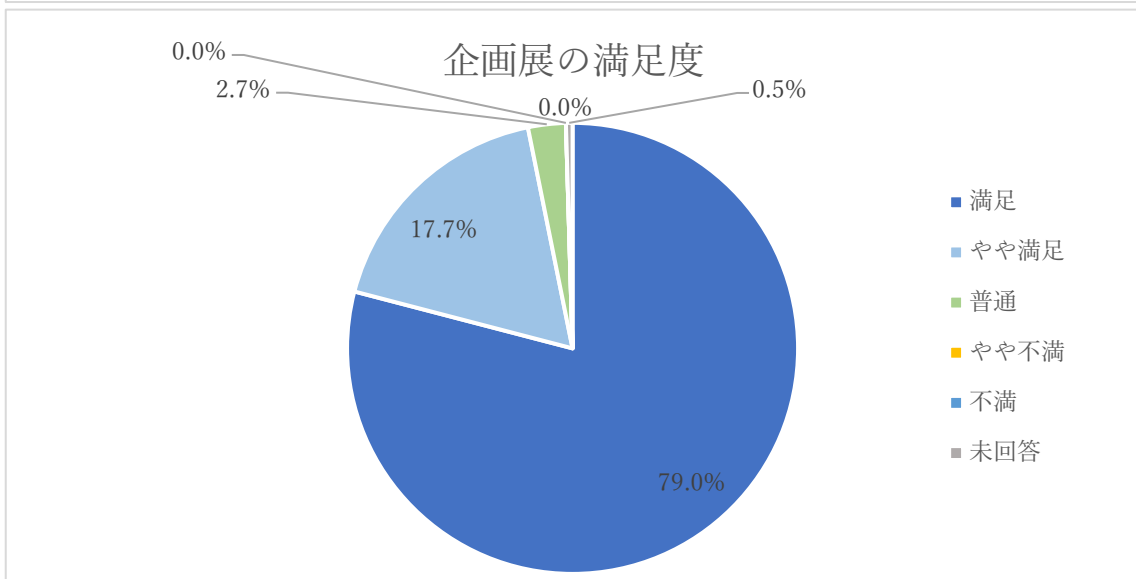
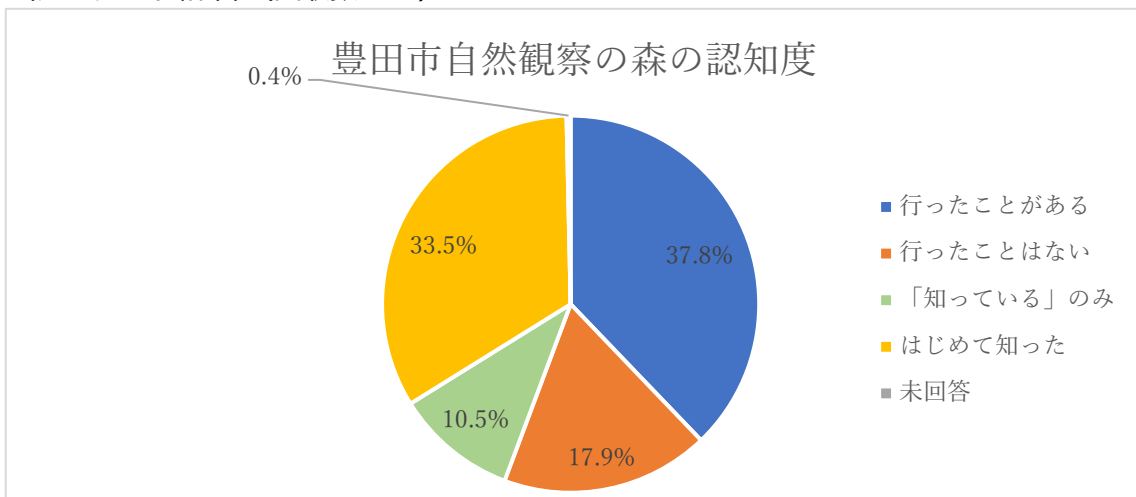


昆虫の色とかたち
(きらめく昆虫 構造色)



写真家 佐藤岳彦氏による大型写真パネル

〈アンケート結果〉(回収数 851)



- ・美術館を目的に来館した利用者の立ち寄りがみられた。アンケートでも、主催である当館を「はじめて知った」「知っているが行ったことはない」という回答した来場者が合わせて 51.4%を占めた。また、「豊田市自然観察の森は駅から遠くてなかなか行くことができないので、ありがたかった」「通りがかりに入ったが、とても面白かった」「豊田市自然観察の森にもぜひ行ってみたいになった」という感想を得た。自然学習施設である当館に足を運ぶ利用者はもともとある程度、自然に興味関心のある層にどうしても絞られてしまうため、本企画展を通して新たな層にアプローチし、自然や標本に親しむ機会を提供することができたと考える。
- ・「美術館で見ることにより、普段とは違う「芸術」の視点で見られて新鮮だった」「美術館というロケーションや写真家の展示が博物館的な実展示とのつながりとなっており、生き物を芸術性という観点でとらえるきっかけになって大変良かった」「美術館で剥製が見られるとは思わなかった」「虫が苦手だけど、美しく思えた」などの感想が得られ、美術館という会場の特徴と自然史標本を上手くマッチさせ、自然に興味関心のある層にも美術に興味関心のある層にも、いつもとは少し違った新鮮な視点で生き物（標本）を観察、親しみを持ってもらうことができたと考える。本展示では美術にも活かしてもらえるよう剥製類を中央に設置し 360℃観察できるようにしたほか、撮影も全て OK としたが、彫刻を学ぶ学生や日本画やスケッチを日頃から描かれている方などからも好評を得ることができた。絵画の際の参考のため標本を閲覧したいという相談もあった。

4. 総括と今後の展開

豊田市中心図書館でのミニ企画展示では、200 部先着の「標本の作り方ガイドブック」が全てなくなり、今回初開催の豊田市美術館の企画展では会期が 11 日間しかなかったにも関わらず、当館主催の企画展では過去最高の 2,338 人の来場者があった。市内にはまだ博物館がないこともあり、標本を絡めた展示自体が少ないため、自然史標本の収蔵に関する活動自体への驚きや再度の展示を期待する声も多く聞かれ、当館や今後開館予定の博物館も含めた連携と活動の必要性を強く感じた。同時に、展示会場を自館に限定しない出前展示による幅広い層の集客と教育普及効果に関して、一定の手ごたえを得ることができた。

今回の出前展示で得た展示手法のノウハウや館同士の繋がりを活かし、市内の施設での展示やイベント等へのブース出展など、自然の事物に触れ、学ぶことのできる場の創出を今後も積極的に図っていきたい。

以上